

諦 崇 寺 報

発行 諦 崇 寺
編集 藤 井 崇 文
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
www.rittouji.jp

菩提心ぼだいしん

「ほんとうの目的を思い出す」

お手伝いの目的

子供の頃のお手伝い、皆さんはどんな事をされましたか？

私はお寺に生まれたので、法要の準備やお墓の草むしり、お塔婆のお焚き上げなどもしていました。ほとんどはお皿洗ひ、洗濯物を畳む、お風呂掃除が…。どの家庭でもある様なお手伝いをやっています。

そんな中、私はお風呂掃除があまり好きではありませんでした。お風呂掃除は、まず浴槽を洗ひ、温度を調整してお湯を溜め始め、しばらくしてお湯が溜まった頃に止めに行きます。ところが遊んでいたりしてお湯を止め忘れ、ついつい「面倒臭いなあ。」と言ってしまふ事がありません。

そんな時には母が「お手伝いはお母さんがして欲しい事、助けて欲しい事をするのが本当の目的で、自分がしたい時にしたい様にするのはお手伝いではありませぬ。」とお手伝いの本当の目的は何かを教えてくれました。



永平寺の生活

平成十六年三月一日、私は上山(入門)の許しを請う為、永平寺の山門に立ちついでました。

それまで晴れの日が続いて雪が溶け、草鞋を履いた足が冷たさをを越え痛かったのを覚えていきます。何時間か経った頃、先輩の和尚さんがやってく来て「尊公、何しに来た？」と尋ねます。私は必死に「道元禅師様のお膝元で修行したくて参りました。」と答えました。

ようやく仮に上山が許されると永平寺での生活が始まります。朝三時半に起床して、まず洗面。左右の人差し指と中指を使い、鼻の頭、おでこ、頭の上と後ろ、耳の上と順番に洗います。次に坐禅。立ち方や坐り方、呼吸の仕方が定められています。そして法堂での読経、合掌の仕方など細かい作法があります。その朝課が終わるとようやく朝食。僧侶は各々、食器という食器を持っていく。食事の際はそれを並べます。その並べ方、給仕の受け方、最後にお湯を注いだら鉢を洗ひ、洗ひ方。その後は回廊掃除、これには作法と言う程の事はありませんがとにかく永平寺の生活は作法、作法、作法の連続でした。

そこで私は疑問に思いました。「道元禅師様は「ただひたすらに坐禅しなさい。」と仰ったのに、それ以外の事はかりに気を使っているのではなからうか。」と。ところがそれは間違っていました。道元禅師様は「生活の全てが仏道修行である。」とも仰っているのです。それを私は「坐禅だけが修行だ。」と勘違いしていたのです。

よく考えましたら、道元禅師様もお釈迦様も洗面、お食事、入浴をされました。ただ坐禅するばかりではなく、その生活を送られるお姿こそがまさに仏様なのです。それなのに私は「道元禅師様のお膝元で修行したくて参りました。」との誓いを忘れ、自分勝手に修行を運んでしまっていたのです。

永平寺で修行する本当の目的は、道元禅師様がお伝えになった仏様としての生活を過して、道元禅師様やお釈迦様と身も心も一体となっていく事です。永平寺の修行の本当の目的は、菩提心を発して続ける、本当の目的は何かを思い出す事です。

目的と行動

私達は何事も目的があって始めるのですが、目や耳や口や頭を動かしたり、目的を達成する為の情報や手段に振り回されたりで、本当の目的を忘れてしまいがちです。

例えば、勉強したいから学校へ行くのですが、「学校へ行くのは嫌。」とか「宿題面倒くさい。」と書いてみたりします。動かし、面接で「御社の社風に惹かれました。」といは一生懸命に働きます。「と入社するのですが、「社長が良くない。」部下が頼りないから。」と愚痴ったりもします。「結婚している方は、結婚した時を思い出して下さい。旦那さんと奥さんが手と手を取り合って二人で楽しい事を分かち合おう。苦しい事も二人で乗り越えて行こう。」と誓い合って結婚するのですが、何年か経つと、「それ面倒だからお前がやってくれ。」と言ってみたり、つまらない事で喧嘩してみたり、するんですよ。

菩提心を発して続ける* 仏教に「菩提心」という言葉があります。仏様目指して頑張ろう、周りの人達も仏様にしていこう、その為に自分勝手な考えは脇に置いて仏様の生活に身も心も融け込ませていこう、その目的を定めて決心する事、これを菩提心と言います。そして菩提心は、一度発せば良いのではなく、何度も何度も何度も発して続ける事がとても重要です。

なぜならば、私達は生きていても身体や頭を動かしている、目的を見失ってしまふ。そうすると目的に辿り着かないばかりではなく、目的に辿り着くまでの情報や手段に惑わされて、迷ってしまふ、苦しんでしまふ。

そのように迷った時、そして再び迷わないように、道元禅師様は「静かに坐禅をして自分自身をよく見つめ、よく観察しなさい。」とお説きになられました。そして菩提心を発して続ける、本当の目的は何かを思い出すのです。

「本当の目的を思い出す」事が苦しみから逃れる第一歩となり、そして目的を達成する近道となります。しっかりと目的を見定めて見失わないように菩提心を発して続ける事が大切です。



あとかき 東日本大震災から一年が過ぎ、「3.11」後の私達は「知恵」をどうすべきかを考える時、科学や文明が進んで「知恵」を磨いたはずの現代で、原発事故や政治の停滞はなぜ起るのでしょうか。

一九七〇年代のオイルショックによるエネルギー危機の解決が目的で、原子力発電が始まりました。それが途中から原子力力ムと言われる利権を守る構造となり、そうしてリスクは過小評価されてきました。その結果が事故であり、エネルギー危機の解決どころか、私達を生命の危機に晒しています。政治は国民や市民のの専らしを守る事が目的ですが、手段であるべき行政システムが権力を持って、さらには与党も野党も「国民の生活が第一。」を忘れてしまふ、なかなか改革が進みません。

大事につけ小事につけ「本当の目的は何か。」を考え続けておられないようにしないと、溢れる情報や手段に惑わされ、迷ってしまふ、苦しんでしまふ、目的に辿り着けませぬ。

今日明日の身近な問題を解決する知恵も大切ですが、「菩提心」を忘れないで、五十年後、百年後を見通す「智慧」を身に付ける事が私達には求められていると思ひます。

崇文 拜